

## 第3回「雑木林塾」受講生募集

育てよう! 調布の森」を合言葉に、ちょうふ環境市民懇談会のプロジェクトとして「雑木林の再生に『ついで講座』を開きます。

昨年は布田にある「へび山」をフィールドとした全6回の講座を行い、笹や樹木で覆われて荒れた林が明るくなり、ヤブカンゾウやキツネノカミソリなども芽生えました。散策路もできて少しずつ“雑木林”がよみがえってきています。

今年度も9月～3月まで全7回の予定で3回目の「雑木林塾」(講座)を開講します。長年放置されてきた身近な雑木林に目を向け、大切な自然を取り戻すための一つの方法として、現代における“雑木林との新たな関わり方”を探って行きたいと思えます。

演習のフィールドは継続して「へび山」をつかい、伐採や笹刈りなどの実作業を中心とし、そのための道具の使い方や安全管理の方法なども学びます。また専門の講師を迎えて“雑木林の考え方・関わり方・利用方法”などについて講義を受けながら一緒に考え作業し、観察会や簡単な工作なども楽しめます。

講座修了後も修了生の方達が「ちょうふの雑木林」の再生に“自主的に楽しみながら関わっていける市民活動”のきっかけになるような講座にしたいと思っています。

定員 30名

(申込み9月16日まで・先着順)

企画・運営：「雑木林塾」運営会議

連携：ちょうふ環境市民懇談会

申込み・問い合わせ：調布市環境保全課



### 講座の予定

- 9月 開講説明会・観察会
- 10月 枯れ木の整理(伐採)・苗床づくり
- 11月 笹刈り・道具の手入れ
- 12月 落ち葉だめづくり
- 1月 室内講座「雑木林とは」
- 2月 竹炭づくり・工作(竹細工)
- 3月 観察会・まとめ・食べる会



### 1年間「雑木林塾」に参加してみよう

「雑木林塾」って何? 解るようで解らない  
どうしてそんな漠然とした事が「塾」になるのか理解出来ない。

しかし1年「塾」を通じて感じた事は、雑木林はやはり雑木林でした。規格化された樹種の林とは違うのです。過去には雑木林も生活の糧を得る場所だったと思いますが、生活様式の多様化により変わってきています。雑木林は常に人が手を入れ可愛がらなければ、自己主張の強い植物ばかりになり、その土地の特徴が出ません。雑木林はその土地、風土、生物が生存できる自然の動植物園だと思います。毎年、毎年何かが変わってきます。

定点観測するつもりで、長くドブプリ「塾」風呂につかりたいと思う。(松明)

## 「小菅村」 野川里山探検隊サマーキャンプ

8月15日朝から雨、いやな予感が、定刻やや遅れて出発、だが古里まで行った所で、雨で国道通行止めでキャンプは中止となりました。このままでは買い込んだ食材が。

たづくりに問い合わせしたところ、運良く16日午前中調理室が空いていたので即予約、早速メンバーに連絡、これでカレーパーティーが出来る。

小池先生指導のもとで、サポート隊キャンプ用カレー作り、調理室の勝手が分からず食器類が何処にあるか右往左往、でもどうにかカレー完成。パン作りは、小池先生一人にお任せで少々時間がかかり、カレー賞味の後焼き上がる。小池先生いわく、カレーをパンですくいながら子供達に食べさせたかった。

午後は場所を変えて、江刺先生指導のもとで連凧作り、凧の骨をセロテープで止めるだけだが、これが子供達には意外と難しい。でも、苦勞しながらも、はい、3連凧の完成、子供達に笑顔が。珍しい、百足の連凧等何点か拝見させて頂き、ありがとうございました。

(あらかわ)



～総合的な学習の時間に対応する地域プログラム等作成事業～

## 『夏休み野川源流ハイキング サポート』

7月29日(火)に調和小学校(4年生)の野川の源流を実際に体験するハイキングのサポートを行いました。このハイキングは身近な野川の源流を見ることで野川や周りの自然に対する意識と興味を深めることが目的です。サポートには10人を超える仲間が集まり、学校側は31人の児童と先生2人保護者2人が参加しました。行程は、お鷹の道、野川源流のひとつである真姿の池、中村研一美術館の湧水、ハケの道、武蔵野公園、野川公園まで来て昼食、休憩の予定でしたが、出発時の曇天が真姿の池あたりで雨になり、やむなく後半の行程が中止になったことは残念でした。

それでも学校を離れた遠出は、児童たちにとって遠足気分も手伝って楽しい経験でした。真姿の池の湧き水が、小さな小川となり、それが学校近くでは大きな川になることは、子供たちにとっては驚きでした。源流の綺麗な湧き水が、下流では汚れてしまうことも、児童たちの関心を引いたかもしれません。小川には蛍の幼虫のえさになるカワニナが生息しており、実際に手にとって見る事が出来たのはちょっとした感動だったことでしょう。近くの史跡国分寺跡を見学、その由来など歴史の勉強も出来ました。

雨のため急遽近くのNPOの事務所でお弁当を食べましたが、その際同行した調布市の人から野川についてのお話を聞き、野川の源流が他にもあり、すべて湧き水であること、また調布市にも源流(湧水)があることなどを教えてもらい、児童は野川に対する認識を新たにしました。

道路の移動や電車、バスの乗車など団体行動も安全や規律上問題なく終わり、悪天候にも拘らず実りある一日でした。(T)

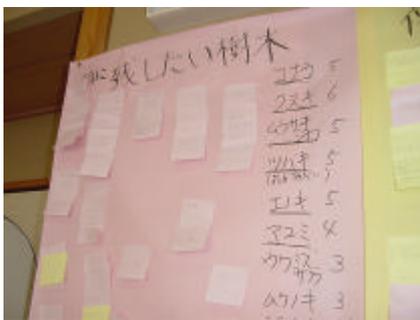


## 入間・樹林の会

前号のニューズレターでお知らせしましたように、8月の活動は管理作業ではなく（真夏の作業は能率もあがりませんが）、また、定例の活動日を都合上変更して、24日に具体的に入間樹林をどのように管理するのか、そして雑木林としてどう仕立てるかを、ワークショップで検討を行いました。

まず、2000年に開始された会の活動と合意事項を再確認しました。

会の目標を『落葉樹中心の人が行きたくなる林』とし、樹林の将来像をみんなで語り合い、パンフレットを作ったことを思い出しました。当時の議論では、武蔵野の雑木林を復活させたいとの意見が多かったように思いますが、同時に今では農業と直接的に雑木林がリンクすることができなくなっていることも確認し、新しい21世紀の雑木林づくりを合意しています。ただ実際には、現に数十年もそこに生きている樹木もあるわけですから、なかなか簡単にはいきません。



みんなで伐採する木、残す植物、植えたい樹木・保全する樹木を書き出し、検討しました。アオキとシュロについては基本的に伐採の対象とすることになりましたが、シュロは作業用材として使い方があってはならないかなどの意見も出され、現地で確認することしました。また、マテバシイについても皆伐採するか、ドングリの木として残すか意見が分かれたところです。その後、樹林で残すシュロを確認したり、坂沿いの樹木に付ける樹名版の再確認を行いました。この日は大変暑く、夏がぶり返したようでしたが、今年の夏は大変異常な気候となりましたが、地球環境は本当に危機的な状況を迎えているのかもしれない。（小）

## 2003 ちょうふ DE 田んぼ日記その5 「夏草取りをしない佐須の田んぼ！」



心配していた日照不足と冷夏の影響もほとんどなく田んぼの学校の稲は順調に出穂（しゅっすい）し、8月上旬にかわいい花を咲かせました。

多摩の農事暦を調べてみると、草取りは田植えがすんで十日ほどたつと「一番草」（調布では「一番ご」という最初の草取りを行い、稲穂の出る直前の8月にかけて「二番草」、「三番草」と3回行うことが記されています。

ところが佐須の田んぼには何故か草が生えません。佐須周辺の環境変化でヒエなどの雑草が入りにくく、水深を確保していることやアオミドロやウキクサが邪魔をしていることも関係しているようです。蒸暑い田んぼの中で身をかがめて行う除草は大変な作業ですが、幸いに田んぼの学校ではその苦労はなく、農閑期のような状態です。

農政局の「低温と日照不足に対する農作物の技術指導について」の水稲の項を見ると、水管理では深水かんがいによる水温確保、施肥や病害虫の防除では低温によるいもち病への対策が指示されていました。作況指数も全国的に100を下回ると予想される中、今年の佐須の田んぼは昨年大量発生した稲ツト虫も気温の関係から少なめで、今のところ例年並の収穫が期待できそうです。右の写真は7月の生き物観察のときに、用水路でトンボがヤゴから羽化する瞬間を撮影したものです。（スタッフ見習い中原）



受講生 渡井撮影

# 調布の自然

小中学生の夏休みも8月で終わり、調布市で生まれたツバメの子どもも成長し飛びまわるようになりました。意外と知られていないことですが、ツバメが軒下に巣をつくり、そこで過ごすのは子育ての時期のみ。巣立ちの後は草原などをねぐらにして過ごします。そして、調布市内にもそんなツバメのねぐらに最適な場所があります。多摩川のヨシ原です。ヨシとは、一見ススキに似た水辺を好む植物で、一番大きく生長した時には3mほどの高さになります。

調布市を流れる多摩川のうち、上河原堰の上流にある中州にはまとまった大きさのヨシ原があり、そこはツバメ達のねぐらでした。ツバメ達にとっては残念なことに、7月20日の花火大会の準備でその中州は草刈りが行われ、ツバメ達の多くは引越しをした様子です。

調布の名物として楽しい花火大会、調布の環境をねぐらを選んでくれたツバメ達、どちらも大切な自然環境の利用の姿として、これからも私達は調布の自然について考え、活動してゆきたいと思います。<文章 羽生田>(情報提供：多摩川の自然を守る会)



二ヶ領上河原堰上流の中州

## 水辺の生き物調査

日時：9月28日(日)AM9:30~12:00  
集合場所：7中近くの中島橋  
対象：小学生以上の親子30名  
内容：秋の野川で水生生物の調査を行います。  
問合せ：環境保全課(81-7086)

## 入間 樹林の会 活動

日時：9月21日(日)AM9:30~12:00  
集合場所：入間町地域福祉センター  
持ち物：軍手、飲み物、筆記用具  
内容：管理作業を行います。  
その他：作業の出来る服装で

## <会議のスケジュール>

### ちょうふ環境市民懇談会メーリングリストに参加しませんか？

ちょうふ環境市民懇談会では、多くの方と日常的に意見交換を行うために、メーリングリストを運営しています。参加希望の方は下記アドレスにご連絡ください。問合せ・申込み:(尾辻)

[kp5y-otj@asahi-net.or.jp](mailto:kp5y-otj@asahi-net.or.jp)

### 環境市民懇談会 連絡会議に参加してみませんか？

連絡会議は各プロジェクトや市内で活動しているグループの情報交換の場です。現在活動している方、これから何かやってみたいなと思っている方、どなたでもお気軽にご参加ください。

### 【編集後記】

初めての体験でしたが、予想外に大変な作業でした。みんなでやるのが、かえって手間になるようで、悩ましいことです。(〇)

日時	場所	活動名/内容
9月4日(木) 18:30~20:30	たづくり3階 303会議室	環境市民懇談会 運営委員会
9月17日(水) 18:30~20:30	市役所3階 第1会議室	入間・樹林の会 世話人会
9月18日(木) 18:30~20:30	市役所6階 第6会議室	環境市民懇談会 連絡会議
9月30日(火) 13:30~16:00	市役所3階 消費者コーナー	ニュースレター 編集・次号企画

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課

TEL：0424-81-7086

E-mail：kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会